



「日本語検定」を紹介 

都主催の「言葉の力」イベント

東京都と財団法人文字・活字文化推進機構が主催する「読書」と「言葉」をテーマにしたイベントが「文化の日」の3日、東京・千代田区有楽町の東京国際フォーラムで開かれました。都の言語力向上プログラムの一環で、若者らの活字離れを防ごうというのが狙いです。この「すてきな言葉と出会う祭典—『言葉の力を東京から』」では、協賛会社である時事通信社の協力を得て設けられたブースで「日本語検定」を紹介しました。

東京都が、言葉に関する一般向けの大規模イベントを開催したのはこれが初めてで、家族連れや若者ら約5000人が参加しました。

「活字の重要性を積極的に発信していきたい」 ＝猪瀬副知事

子どもを対象に絵本で読んだことを人に伝える喜びを教えるコーナーや就職活動中の学生たちに言葉の大切さを教える講座のほか、斎藤孝明治大教授の講演「新聞で学力を伸ばす～勉強・就活で役立つ新聞を使ったトレーニング法」、同イベントの旗振り役である猪瀬直樹都副知事やイベントのポスターをデザインしたアーティストの村上隆さんらをパネリストにしたシンポジウム「これからの社会で求められる言語力～東京から『言葉の力』を再生する」も開かれました。



時事通信社のブースでは、パソコンを使って4、3級の日本語検定クイズを行うなど日本語検定を紹介、用意したパンフレットがあつという間になくなる盛況ぶり

でした。またミニテストなども行い、参加者が真剣な顔でこれに取り組む姿が見られました。

猪瀬副知事は「多くの来場者があった。活字の重要性を積極的に発信していきたい」と総括。時事通信のブースに立ち寄り、日本語検定の説明を受けながら「なるほど～」とうなずいていました。

